令和８年度　学校自己評価（中間評価） 前期の成果と課題

25長野県屋代高等学校・附属中学校　　**回答数:76**

職員による中間評価　A:十分　B:概ね十分　C:やや不十分　D:不十分

評価項目		評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題	職員評価 A	職員評価 B	職員評価 C	職員評価 D	指標
1	学校づくり	新しい学校づくりに向け、普通科教育・理数科教育・中高一貫教育およびSSH先導的改革型Ⅱ期のプログラムについて更に研究を深め実践することができたか。	生徒の自発的・探究的な学びを支援することで、学校の特色化と探究的な学びのさらなる深化を図った。SSH科目については、カリキュラムデザイン係とSSH係が連携して運営し、履修から単位認定までを一体的に管理する仕組みを構築した。また、今年度入学生からSSHに関する科目の整理・統合を進め、SSH事業の合理化とカリキュラムのさらなる体系化を図った。理数科の英語によるポスター発表「サイエンスフェア」では、今年度から他校生徒の参加を可能とし、学校間連携を強化するとともに、生徒の国際的な発信力の向上を図った。（カリキュラムSSH）	SSH科目の体系的な運営や単位認定の仕組みを整備することで、生徒の主体的な探究活動を支援する体制を充実させることができた。一方で、データサイエンスや国際的な発信力を段階的に身に付けられるよう、1年次からの系統的なカリキュラムを今後さらに整備する必要がある。また、「サイエンスフェア」のような他校との交流・連携を取り入れた取組や、国際的な科学コミュニケーション力の育成につながる事業を一層充実させていきたい。（カリキュラムSSH）	29	45	2	0	83.9
			Naganoサイエンスコンソーシアム（NSC）事務局として、県教育委員会学びの改革支援課と連携し、オンラインによる担当者会を複数回実施した。各加盟校が抱える探究活動上の課題や実践事例を共有するとともに、課題研究の指導力向上に向けた研修の機会を設けることで、県内SSH校及び理数科等設置校をつなぐハブとしての役割を果たした。また、11月1日に開催予定の「NSC課題研究研修会」に向けて、SSHコーディネーターや管理機関と連携しながら準備を進めた。（カリキュラムSSH）	11月1日の「NSC課題研究研修会」については、県内外の生徒が研究成果を発表・交流する機会とするとともに、指導者にとっても課題研究の指導方法について学び合える研修の場となるよう、内容の充実を図りたい。NSCの取組は、本校の次期SSH申請においても重要な柱となり得ることから、加盟校間の連携や成果共有の仕組みをさらに強化していく必要がある。（カリキュラムSSH）					
			次期SSH申請に向けた検討事項について、全教職員で共有するための職員研修会の準備を進めた。9月には、石川県立金沢泉丘高等学校及び富山県立富山中部高等学校を視察し、SSHの先進的な運営や探究学習の取組について学ぶとともに、本校の探究活動をさらに充実させるための示唆を得た。また、SSH事業の成果普及の一環として、徳島県立脇町高等学校の視察を受け入れ、本校の取組や成果を校外へ発信する。（カリキュラムSSH）	職員研修会や先進校視察を通じて、次期SSH申請に関する情報や課題意識を校内で共有するための基盤を整えることができた。一方で、視察や意見交換から得た知見を、本校の教育活動やSSH事業の具体的な改善に十分反映させるまでには至っていない。今後は、職員研修会や職員会等の機会を活用し、全教職員がSSH事業の現状と課題、今後の方向性を共有するとともに、SSHを学校全体の教育活動として捉え、屋代高校の将来像について検討を深めていく必要がある。（カリキュラムSSH）					
			＜SSH外部機関連携＞ 6月 1日（月）　第1回SSH運営指導委員会 兼 2年7組課題研究テーマ相談会 6月27日（土）　鳩祭理数科展 7月 9日（木）　高3　SS探究（サイエンスフェア） 7月10日（金）　高1・中1　データサイエンス連携講座（統計講演会） 7月13日（月）　高2　SS探究フロンティア連携講座 7月16-17日　2-7　アカデミックサイエンス（木曽天文台実習「星の教室」） 7月29-31日　東北サイエンスツアー（福島高校・東北大学・つくば） 7月31日（金）　科学班　夏休み子ども科学教室［屋代公民館］ 8月 4-6日　3-7課題研究　SSH生徒研究発表会［神戸］ 8月22日（土）　2-7課題研究　マスフェスタ（大阪府立大手前高校） 8月29日（土）　高2　課題研究課題探究中間発表会 9月 6日（日）　3-7課題研究　日本植物学会高校生の部［東京理科大学］ 9月10日（木）　SSH事業視察　［金沢泉丘高校・富山中部高校］ 9月25日（金）　1-7 サイエンスラボ［総セ］ 9月26日（土）　3-7課題研究ほか　千葉大学高校生理科研究発表会	後期も、数多くの事業を実施予定。					
2	キャリア教育	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	夏期休業中には各教科、個人のレベルに応じた補習を5日間(7/31～8/6)実施し、また学校で集中学習を2日間(7/28・7/29)実施した。希望者が参加し、課題意識を持って意欲的に取り組む様子が見られた。（高3）	10月からの朝・放課後・土曜補習への参加や1棟での自主学習等を通じ、集団として受験に取り組んでいくよう指導する。 （高3）	30	43	3	0	83.9
			例年県内大学の先生をお招きして行っていた大学中心の「キャリア講演会」を見直して、近隣企業10社から講師をお迎えした「企業ガイダンス(6/4)」に替えて実施した。大学関係の講演会については、9月の「屋代ミニ大学」(9/11)を1，2年合同で、県内外から分野別に9大学17講座の講師を招いて模擬講義を計画し、大学への学びへと生徒の興味関心が広がり、深まるように努めた。（高2）	学校行事や夏季休業中のオープンキャンパス（自主参加）を通じ、生徒は各自の進路を考えることができた。それらを踏まえ、3年次の科目選択が行えるように面談等を通して指導していく。進路についての意識は高まりつつあるが、実行が伴わない生徒がまだまだ多いので、各自の進路実現に向けて学習に取り組むよう折に触れて指導していく。（高2）					
			社会で活躍する本校OBによる進路講演会を実施(6/4信州大学工学部樽田誠一先生)。 文理選択について、7月懇談会で文理選択の話題を共有、長期休業中に大学や受験科目等を調べる意識づけを行った。9月の保護者説明会と合わせ生徒への周知を図り、その中で進学のために必要な情報を整理させ、後期への意識づけを行った。 夏休みにはジョブシャドウ（大学見学、夢ナビ動画視聴含む）を実施、自己理解と将来の職業について考える契機とした。 9月に2学年と合同で「屋代ミニ大学」を開催、県内外9大学17講座の中から興味関心に合わせて講義を受講し、学習への意欲向上へとつなげた。（高1）	進路講演会を通して、大学での学びや今やるべきことなど、キャリア形成に対する意識を深めた。 進学とは別の観点で、職業や社会人としての在り方を意識したキャリア教育の在り方を検討したい。 後期では、大学でディスカッション型講義実践する講師を招き模擬講義を実施したり、大学見学に参加したりする中で、学部学科理解を深め、より具体的な将来像について考えさせる予定である。（高1）					
			各学年探究学習として、「千曲市地域探索（1年　10/1）」、「校外課題探究学習（2年）　5/20」、「卒業探究学習（3年　週2回実施中）」を実施した。（中学）	これまでの学習を系統立てながら、体験的な学習の幅を広げていきたい。（中学）					
			BYODの実施により、中学3学年の生徒が個人の端末を学習に使用することで、学習の効率化と高校への連携を進めることができた。（中学） キャリア教育主任の堀先生を講師として、大学受験に向けた心構えと具体的な手続きについてお話をいただいた。（高3）	端末を生かして学習を深化させると共に、個人端末の管理の仕方や情報モラルについても引き続き指導していく。（中学）					
			外部講師（駿台予備学校）による進路講演会を保護者説明会の中で実施し、「現役合格に向けて、受験生を持つ保護者の役割」をテーマに、大学入試の現状と保護者として心がける内容を講演していただいた。（高3）						
		進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	節目節目で学年集会（4月、6月、7月、8月の計4回実施）を開いてキャリア担当係より話をし、意識の向上に努めた。共通テストのデジタル出願に備え学年集会にて説明を行った。前期の学年通信発行は4回にとどまった。（高3）	模試、共通テスト、個別試験、総合型選抜、学校推薦型選抜に関する情報を更にきめ細かく発信していく。（高3）	25	45	6	0	81.3
			学年通信・進路だより・学級PTA・保護者説明会・学年集会等を通じて学校行事、進路・学習に関わる情報の提供ができた。（全学年）	更に情報を充実させ、三者での情報の共有・理解を深めたい。（全学年）					
			学年通信、学年PTAを通してキャリア形成に関する情報を発信した。また、全校生徒と保護者を対象に「先輩の話を聞く会」(8/29)を実施した。（中学）	生徒及び保護者に対して進路情報を適切に発信するとともに、生徒が将来の自分について考える場を積極的に設けていきたい。（中学）					
		全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を拡げることができたか。	授業を基本とし、入試にあたっては科目数を絞らないことが本校生にとって有利であることを強調し、目標を下げないように指導している。（高3）	模試の結果を踏まえつつ、諦めずに最後まで頑張らせたい。（高3）	29	44	3	0	83.6
			学年会等で模擬試験の状況やの各教科の取り組みを共有し、生徒の学力状況・進路目標のを意識したうえで授業等に生かすように努めた。また、担任間で、希望者模試の申し込み状況を共有し、更に多くの生徒が受験するように呼びかけを行い、日程の最後に30分の難関大受受験に向けた講話を計画した。（高2）	折に触れて、高い志望を持たせながら学力の向上を図る取り組みを継続していきたい。（高2）					
			オープンキャンパス参加や夢ナビ動画視聴を促し、大学選択や職業選択の視野を広げるように努めた。定期考査前に放課後学習室を設定し、学年全体で学習に向かう意識を涵養した。（高1）	進路実現に向けた学年としての方向性を明確にし、上位層を引っ張っていける向上心のある集団がつくれるよう、各教科で連携しながら指導を進める。（高1）					
			教科「情報」の共通テスト対策として、補充授業・自習ICT教材、全国模試などの活用を行い対応した。（カリキュラム　情報担当）	夏季休業の時期を利用して、プログラミングなど、ウイークポイントを重点的に対策し、向上が見られた。引き続き、対策を進めたい。（カリキュラム　情報担当）					
			第1回職員研修会(6/10)を実施。「2026入学生大学入試総括」をテーマとし、AIによる添削やデータ分析、デジタル教材の活用で指導の効率化と教員の負担軽減を実現した事例を学んだ。また、2027年度入試改革（新学部・多様な選抜枠など）を見据え、探究活動と小論文を連携させた主体的な進路・個別支援を強化する必要性を確認した。（カリキュラム　職員研修）	第2回職員研修会(11/11）では、大学入試で一般選抜以外入試形態の重要性が増す中、学校推薦型・総合型選抜の一層の活用に向けた指導方針や具体的運用策を模索・検討する研修内容を計画中である。（カリキュラム　職員研修）					
			水曜日の放課後に「CSS(Co-study space)」を開設し、自主的な学びの場として生徒のサポートに充てた。（中学）	引き続き生徒が主体的に学習に取り組む環境づくりに注力していきたい。（中学）					
			学力推移調査（国数英　第1回 4/9中3　4/23中1・2、第2回 8/27中1～3）を実施し、生徒の学習状況や学力状況を把握し、面談や学習指導の拡充を行った。（中学）	結果を個人面談で生徒にフィードバックし、学習の方法や目標について共に考えていく。（中学）					
			全国模試の結果を分析する研究会を、ベネッセ担当者を呼んで実施した。（高3）	後期は、河合塾担当者に分析会をお願いする予定。（高3）					

評価項目		評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題	職員評価				指標
					A	B	C	D	
2	キャリア教育（続き）	学びの基礎診断等により生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	定期考査や模試分析を通して各科目の学力を把握し、授業やHRにおいて生徒指導を進めてきた。（高3）	生徒の心理面も支援しつつ、学力の伸張を図っていきたい。（高3）	24	49	3	0	81.9
			面談や模擬試験等の機会を利用しながら、志望大学・学部等を考えさせる指導・支援ができた。（高2）	修学旅行明けの11月以降、受験意識を高めた学校生活へ移行できる指導体制を進めたい。（高2）					
			定期考査の成績や春のスタディーサポート等を利用して学力や学習状況の把握を行い、個別面談等の指導に生かした。（高2・高1）	指導・支援を継続していく。（高2・高1）					
			学習成績や面談等を通じて生徒の実態を把握し、個々に声がけしながら改善すべき点を確認した。 定期考査前には「けテぶれカレンダー」で学習の計画と振り返りを記録させ、学習習慣と学習時間を目に見える形で残し、学習への自覚を持たせる一助とした。（高1）	定期考査前の学習室やけテぶれカレンダーなどの学年全体の取り組みについて、手段と目的を明確にしながら継続していく。 通常の授業をベースに、生徒の実態に応じた指導の手立てを学年や各教科で検討する。（高1）					
			各教科で定期考査やチェックテストの結果を指導の改善に生かすと共に、個別の相談や指導を行った。 通知表のほかに「学びの軌跡」を発行し、生徒が自分で学習の定着状況を振り返ることで自己調整しながら学習を進めていくことができるようにした。（中学）	定期考査や学力推移調査のほかに、授業内に行うチェックテストの結果を分析することで、さらに「指導の個別化」と「学習の個性化」を進めていく。（中学）					
3	教科指導 授業改善	探究的な学びに取り組む姿勢を育てる魅力ある授業が提供できるよう、ICTをはじめとした先進的な技術を教育活動に活かす研究を進め、教科・領域における従来の指導方法の見直しおよび改善に努めることができたか。	各学年の総合的な探究の時間において、ICTを活用しつつ、昨年度整えられた指導計画を洗練し、また、生徒にとってよりわかりやすく使いやすい学習教材の開発を進めた。各教科・領域における指導の改善については、教科内授業研究会を例年に習って継続的に実施することや、お互いの授業を自由に参観するなどの手立てを通して、経年深化による指導の改善を図った。（カリキュラムデザイン）	総合的な探究の時間においては、生徒の取り組みの様子に、年度当初から段階的な改善が見られ、より真剣に自分事として取り組む生徒が増えてきている。各教科・領域における指導改善については、経年深化を経て着実に進歩していると思われるが、生涯にわたって学び続ける生徒の育成という観点からは、学問としての探究的な学びの姿はまだ薄い。探究的な姿勢で学び続ける生徒の育成のために、授業のあり方そのものを変革する必要を感じている。職員研修会をきっかけにしたい。（カリキュラムデザイン）	30	45	1	0	84.5
4	生徒支援	個別に支援や配慮を必要とする生徒に対し適切な支援を施すことができたか。	外部機関の支援のコーディネート/支援会議設定/保護者懇談同席/他外部会議への出席/研修会出席等、配慮が必要な生徒に対して複数回個別に支援をおこなった。職員向け研修会（スクールソーシャルワーカー）も実施した。（生徒支援）	支援が必要な生徒の増加している。オンライン授業やテスト時の配慮はどこまで支援する資源がこちらにあるのか、学校としてどう対応していくかの検討を引き続き進めていく。（生徒支援）	36	38	2	0	86.2
			担任・学年と連携を取りながら、養護教諭の的確なアドバイスを受け、学校全体の支援体制の構築と、スムーズな運営のために、毎週係会をおこない検討した。SSWの意見を聞いたり、テスト時の配慮をしたり、オンライン授業の受け入れて体制も整えた。（生徒支援）	学年間の調整を図り、引き続き支援を続けていく。また、個別事案の支援だけに留まらず、職員の生徒支援スキル向上に向けての情報提供をおこなっていく。（生徒支援）					
			4月に個人面談、7月に3者面談を実施した。（高3）	10月に個人面談、12月に保護者面談を実施して、進路についてさらに具体的に検討する予定。（高3）					
	生徒指導	通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	始業式・長期休み前には交通事故の話題にふれ、ヘルメットの着用含め伝えた。生活安全講話をして自転車運転の注意事項を確認したり、交通交通立ち番を複数回実施したりして声掛けをした。（生徒支援）	後期も前期同様の取り組みを行い、交通事故を無くす努力を継続する。（生徒支援）	30	46	0	0	84.9
			学年集会の中で、生徒支援係より自転車通学の注意と、道路交通法改正の話をした。（高3）						
		SNSでの人権侵害、いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	入学式や終業式で話をしたり、県警より講演を頂いたりし、啓発活動を行った。特にSNS絡みについては強調し注意喚起を促した。（生徒支援）	後期も、安全な学校生活となるよう、生徒支援や学年会にて情報を共有していく。（生徒支援）	22	45	9	0	79.3
	人権教育	すべての教育活動が人権教育を基盤として行われ、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりにつながったか。	①6月9日、高校人権教育研修・連絡協議会に参加。講演会「クラブ活動等における多様な性のあり方」（講師：東京都立大学ダイバーシティー推進室特任教授・藤山新氏）と地区ごとの連絡協議会が行われた。 ②9月8日、職員人権研修会実施。講師に当事者の長岡春奈氏をお招きし、「LGBTQ啓発講演　性同一性障害の当事者の現状」の演題で講演を行った。（人権道徳教育係）	①多様な性のあり方に関する学校での対応の基本的スタンスや他校での人権教育の実施状況について幅広く学ぶことができた。 ②LGBTQ＋についての啓発的な内容全般と身近な生徒に当事者がいた場合の「当事者は健常者である」という認識と対応の留意点、人権意識全般について幅広い知見を職員全体で共有することができた。 ①②で得られたことをもとに今後の教育活動や生徒対象の10月29日の全校人権研修会と1月28日人権研修LHRへとつなげていきたい。（人権道徳教育係）	19	53	4	0	79.9
			学年集会の中で、人権意識の涵養とSNSとのかかわり方について話をした。（高3）						
5	情報発信	本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。	定期的（週に1回を目途）にハトニワを更新し、リアルタイムで情報発信することができた（教務広報）	継続して定期的なハトニワの更新を行う。（教務広報）	24	49	3	0	81.9
			各行事が終了するとともに、学年classルームを通じて情報発信を継続して行った。（高3）						
6	生徒会	質実剛健の気風を大切にして、執行部と各会員が一体となった自主活動のための指導・支援を行うことができたか。生徒一人ひとりが、生き生きとした活動をすることができたか。	6月末開催の第70回鳩祭に向け、5月に生徒総会、準備のための一斉係会2回、事後の一斉係会1回、そして4月以来4回にわたる正副係長会を実施し、鳩祭成功のための議論を重ねることができた。（生徒会）	鳩祭では、衛生に注意した運営ができた。中学1年・高校1年による「縁日」を実施し、来場者に好評であった。音響・照明機器を充実させることができ、専門業者に依頼せず生徒中心に運営することができた。引き続き、文化祭が生徒の文化活動発表の場として機能できるよう取り組んでいきたい。（生徒会）	23	50	3	0	81.6
			生徒会役員を中心に、クラスマッチ、鳩祭をはじめとした行事成功のための献身的な活動を行うことができた。日常的な委員会活動や生徒会員としての自覚的な行動が身についている。（生徒会）	前期は、班長会を開催して班室の施錠の徹底を呼び掛けた。後期も引き続き班室整美の強化や、先の見通しをもった生徒会予算の作成をしていきたい。（生徒会）					
	校内美化	清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	清掃用具庫の備品の過不足を調整した。モップ交換を計画に沿って実施した。（教務厚生）	清掃用具庫の在庫点検を強化したい。（教務厚生）	18	46	11	1	76.6
			ワックスがけを、教室と廊下を2期に分けて行い、作業の効率化を図った。（教務厚生）	ごみの分別収集を生徒会と協力しながら改善したい。（教務厚生）					
			ゴミステーション・段ボール収納・資源ごみ収集について、日常の指導を行った。（教務厚生）						

指標は、A(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1点)として最高100点になるように換算しました。　〔換算式〕 25 × (4点×Aの数＋3点×Bの数＋2点×Cの数＋1点×Dの数)÷総数